奄美の風だより

発行・編集：奄美自然体験活動推進協議会

ＮＯ．１９
（冬号：５）
２００５．１．１
ＡＮＣ：News Letter

「 マンリョウ 」　湯湾岳にて撮影　H16、12，26

１２月中頃までは冬とは思えないような暖かい日が続いていましたが、年の暮れから急に寒くなってきました。雨が降り続く日などはより肌寒さを感じます。

先月下旬に湯湾岳方面に出掛けてみました。どんよりと曇った日でしたが雨が降らずゆっくり散策できました。歩いていくと林内で寄生植物のユワンツチトリモチが木の根元に生えているのを見つけました。また、赤い実をつけたマンリョウも何本か見ることができました。往復の林道では今シーズンは特に多く見られるシロハラが車の前を横切って行くことが何度もありました。

この季節、センター周辺では、シロハラの他にアカハラ、ジョウビタキ、ハクセキレイなどの冬鳥が芝生で餌を探して飛回っています。また、今まではあまり聞こえて来なかったルリカケスのギャー、ギャーと鳴く声が、昨年の秋から事務所の中にいても聞こえてきます。相次いでやって来た台風のせいで好物のシイの実がなく餌を探しに山中のイモ畑へ来ていると言われています。そのせいでしょうか、集落でも鳴き声を耳にしたり姿を見かける機会が多くなっています。

協議会活動報告

第５回やせいのいきもの絵画展

テーマ「身近に見られる」

展示期間：平成16年12月４日（土）～平成17年１月30日（日）

第５回「やせいの生きもの絵画展」がセンターと共催で開催されています。

奄美には集落や道路沿いなどでよく見かけるものから、あまり見ることのできない貴重な固有種などの動植物が多く生息しています。

今回はみんなが実際に見たことのある動植物を描いてもらおうと企画し、テーマを「身近に見られる生きもの」として募集しました。応募校は１６校（個人５名含）で、応募作品数は１６０点でした。

11月19日にセンター職員と協議会事務局で選考会を行ない、４部門で１２点の入賞作品を選びました。

表彰式が12月４日（土）午前11:30分からセンター企画展示室で行われ、協議会会長代理が「普段から自然や動植物に関心を持っているその心が絵に表れていると思います。」と挨拶された後、入賞者へ賞状と副賞を手渡されました。低学年の部で「いきもの大賞」に輝いた藤村倖生君は「学校の校庭のブロックの所でいつも見ていたから描きたかった」とうれしそうに入賞の喜びを話してくれました。

絵画展をご覧になった方からは「どの子も生き物の特徴を捉えて表現していてすてきでした。」などの感想が寄せられています。

応募作品はセンターの展示室に、１月３０日まで展示しておりますので、是非、子供たちの作品を見にいらしてください。

表彰式と絵画展の様子

いきもの大賞の藤村君

絵画展の様子

入賞者全員

入賞者及び作品名

賞	入賞者	題名	学校名（学年）
いきもの大賞	藤村 倖生	あっキノボリトカゲ	大棚小学校３年
	喜島 力也	バーバートカゲのぼうけん	大棚小学校４年
あざやか賞	重野 宏太	たのしいうみのがっこう	今里小学校１年
	祇園下 真織	きれいなツマグロヒョウモン	大棚小学校３年
	福島 秀太	アカショウビンと大きな木	大和小学校４年
	宮田 一吹	チョウチンブラがブーラブラ	今里中学校２年
ユニーク賞	春日 駿介	ヤドカリと遊んだよ	阿伝小学校１年
	平 妃華莉	カマキリとわたし	阿伝小学校１年
	岩泉 大豪	木にはりついているせみ	大棚小学校４年
	溜畑 吾大	この指とまれ	今里中学校３年
審査員特別賞	宮田 亜美	トンボ	今里小学校５年
	東江 優	夏の夜に	今里中学校２年

第５回やせいのいきもの絵画展出展校（応募総数１６０点）

学校名	応募作品数	学校名	応募作品数
名瀬小学校	４点	上小川小学校	２３点
大和小学校	６９点	小宿中学校	３点
大棚小学校	４点	今里中学校	６点
名音小学校	２４点	個人	５点
今里小学校	１０点		
田検小学校	１点		
円小学校	６点		
阿伝小学校	５点		合計１６０点

絵画展をご覧になった方からのご感想

入賞作品の紹介

「いきもの大賞」

「あっ キノボリトカゲ」
藤村倖生（大棚小３年）
低学年の部

「バーバートカゲのぼうけん」
喜島力也（大棚小４年）
高学年の部

「あざやか賞」

低学年の部

「たのしいうみのがっこう」
重野宏太（今里小１年）

「きれいなツマグロヒョウモン」
祇園下真織（大棚小３年）

高学年の部

「アカショウビンと大きな木」
福島秀太（大和小４年）

「チョウチンブラがブーラブラ」
宮田一吹（今里中２年）

「ユニーク賞」

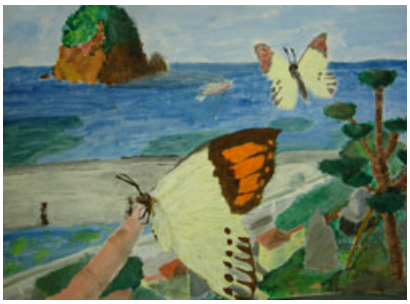
「ヤドカリと遊んだよ」
春日駿介（阿伝小１年）

低学年の部

「カマキリとわたし」
平妃華莉（阿伝小１年）

「木にはりついているせみ」
岩泉大豪（大棚小４年）

高学年の部



「この指とまれ」
溜畑吾大（今里中３年）

「審査員特別賞」

「トンボ」
宮田亜美（今里小５年）

「夏の夜に」
東江優（今里中２年）

新聞記事

身近な生きもの情報

野生の生きもの観察日記

『冬の自然日記：畑にルリカケスがやってきた』

例年になく暖かな冬を迎えた奄美にも、北からの冬の使者がやってきました。11月中旬にはシロハラ・アカハラなどのツグミ類も渡ってきて、奄美の冬鳥がそろいました。冬鳥は年によって渡ってくる数が大きく変わるのですが、今年は多い年のようです（ちなみに昨年は冬鳥の少ない年で、一昨年は多い年でした）。

11月のある日、地元新聞の紙面上に『ルリカケスが畑荒らし』という見出しが出ていました。センターからさほど遠くない大和村内の山中にあるサツマイモ畑に多くのルリカケスが飛来し、収穫中のイモを食べているという内容でした。様子を見に行くと、畑の中に15羽近くの集団がいてイモを突いたり、どこかに持ち去ったりしていました。人が近くで作業をしていてもお構いなしです。収穫したイモは、乾燥させるために一時的に畑に置いておくそうですが、自分でイモを掘り出す力の無いルリカケスはこういった乾燥中のイモや、小さくて収穫されず放置されたイモを食べに来るようでした。私は学生の頃からルリカケスを見てきたのですが、一度にこれほど多くの個体を見たことはなく、この光景には驚きました。お話を伺ったところ、10年来この場所でイモを作っているがこんなことは初めてで、商品価値の高い大きなイモを突かれるのは困ること、ルリカケスよりは畑を掘り返すイノシシの方が被害が大きいことなど、たくさんの話を聞くことができました（右写真；収穫後のイモ畑に集まるルリカケス）。

ルリカケスがサツマイモを好むということは、この鳥が『トンクレ（サツマイモを食べるの意）』と呼ばれているようによく知られています。また秋～冬には5羽程度の群れを作るところもよく観察されます。今から30年程前には、数十羽以上の群れも観察されていたそうです。さらに今年は台風の影響で全国的にドングリが少ないという話をよく聞きます。奄美でもシイの実がかなり少ないという話が聞かれ、本土と同じように奄美の森の生き物達は食べ物探しに苦労しているでしょう。今回のケースはこういった状況が重なり、一度に多くのルリカケスが集中した結果と思われます（左写真；倉庫に入ってイモを食べるルリカケス）。

12月にまた訪れた時、収穫の終わったイモ畑にルリカケスの姿はありませんでした。多くのサツマイモを手に入れたこの地域のルリカケス達は、この冬を無事に乗り切り、春に子育てをすることができるでしょう。…そして次の秋、ドングリは実るのでしょうか、そして簡単に手に入る美味しい食料を見つけたルリカケス達は再び畑に現れるのでしょうか？注視していく必要があると感じた事件でした。（センター　中村）

情報マップ　地図

冬にみられる野生生物

※参考文献：山渓フィールドブックス，
図鑑奄美の野鳥，北緯28度の森

［ジョウビタキ］スズメ目　ヒタキ科　　全長14cm

　雄は頭上から首の後ろにかけて銀灰色で、頬やのど、首胸にかけては黒色、下面と腰や尾の外側が橙色である。翼は黒っぽく、目立つ白い班がある。雌は頭から背にかけては灰褐色で、下面は淡褐色、腰や尾は赤褐色で、翼に白班がある。尾を振り頭をヒョコッと下げる動作をよくする。冬鳥として本州以南の平地や農耕地などに渡来する。奄美へも冬鳥として、集落付近の平地などの開けた場所に渡来する。

鳴　き　声：ヒッ ヒッ　カッ カッ、など

生息時期：10月～12月～3月

「マンリョウ」（万両）

　縁起のよい名前や果実の美しさから、庭や鉢に植えられて昔から園芸植物として親しまれていいる。高さが1ｍほどになる常緑の低木で、暖地の常緑樹林下に生える。野生種は園芸種と比べると果実の粒がやや小さく、直径が7ミリほどである。茎は直立し、上部で数本に枝分かれすることもある。果実のつく枝が横に30cmほど伸び出すのも野生種の特徴。赤い果実はヒヨドリなどの野鳥が好んでついばむ。

果　期：10～2月

分　布：関東地方以西、四国、九州、沖縄

「ユワンツチトリモチ」

　イジュの根に生える多年生寄生植物、は根茎をすりつぶして鳥もちを作るからである。

分　類：ツチトリモチ科　ツチトリモチ属

大きさ：高さ7～10cm

花　期：11月～12月

分　布：奄美大島（固有）

編　集　後　記

　年明けから寒い日が続いていますがいかがお過ごしでしょうか。
昨年中はお世話になりました。今年もどうぞ宜しくお願い致します。

編集・発行：奄美自然体験活動推進協議会事務局
□ 〒894－3192
鹿児島県大島郡大和村大和浜100
大和村役場　企画財政課
ＴＥＬ：0997－57－2111
□ （連絡・書類等送付先）
〒894－3104
鹿児島県大島郡大和村思勝字腰ノ畑551
奄美野生生物保護センター内
ＴＥＬ：0997－55－8620
ＦＡＸ：0997－55－8621